

コロナ禍の新しい診療 No.2

高齢化社会を迎えて、認知症や、サルコペニア(足腰の脆弱性)を合併するとQOLが損なわれることが明らかになってきました。豊かな人生後半を担保するには、この二つの病状を克服する必要があります。そこで、当院では最新のMRIを導入し関節症のMRI診断・治療、早期の認知症の診断と予防、リハビリセンターを新設し運動機能、認知機能を維持する診療に取り組みます。

① 変形性膝関節症MRI診断と治療

厚労省の調査では日本の変形性膝関節症の患者数は約800万人と推定されています。当院で膝関節症を担当する島川先生は、徳島市民病院副院長時代には膝関節症の手術数は中四国で3位以内で、この分野のエキスパートです。

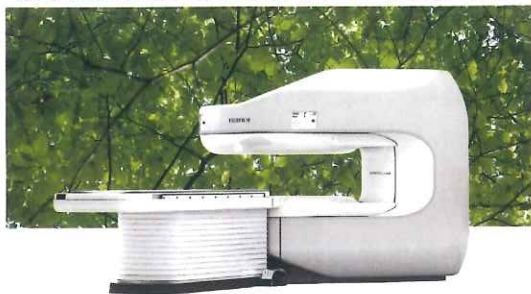
変形性膝関節症の診断と治療には従来のレントゲン写真に加えてMRI画像が必要です。この度最新のMRIを導入し、適格な治療法を提案します。治療法には手術療法と手術以外の保存的治療法、ダイエット、有酸素運動などの生活指導などがあります。

保存的療法には鍼灸治療・温熱療法・低周波・極超短波・ホットパックなどの物理療法、筋力強化・可動域改善などのリハビリテーション、消炎鎮痛剤その他の飲み薬、ヒアルロン酸・ステロイドホルモン剤などの関節内注射などがあります。新しくリハビリセンターを開設して、運動リハビリに鍼灸リハビリを加えて疼痛緩和を図ります。

保存的療法の効果の予測やどのような手術方法を選択するか判断にはMRIによる関節軟骨のすり減り程度、骨の質的状態の評価、半月板の断裂や変性の度合い、靭帯の腫脹や断裂の状態、周囲筋肉の状態等の詳細な診断が大変有用であり、中高年の膝関節痛の患者様にはMRIの検査をお勧めいたします。

最先端の機能を最大限の優しさで

最新型のMRI装置を導入いたしました



富士フイルムヘルスケア社製 オープンMRI
APERTO Lucent Plus

当院のMRIの特長

- 一般的なMRIと違い、広い空間で検査が出来ます。
- 検査音が静かなので、安心して検査ができます。
- 寝台は幅の広い設計になっており、楽な姿勢が可能です。



膝のMRI ▲

②リハビリテーションセンターの創設

腰痛や膝関節痛の原因である脊柱管狭窄症・変形性膝関節症などは手術治療・薬物治療と合わせてリハビリが有効です。

糖尿病に伴うサルコペニアは認知症のリスクが高くなるといわれており、当院では今夏からリハビリテーションセンターを創設して様々な疾患の原因となるサルコペニアを予防します。

サルコペニアとは筋肉量の減少及び筋力の低下のことを指します。サルコペニアになると立つ、歩くといった日常生活の基本的な動きが障害され、転倒、骨折のリスクが高くなります。サルコペニアは認知症や心不全の他にも各種疾患に悪影響が出ることが判明して、近年では運動器疾患だけでなく様々な診療科にまたがる疾患に対してサルコペニアの予防が必要になってきました。

サルコペニアの予防になるのがレジスタンス運動いわゆる筋力トレーニングです。

最新の研究では運動することにより筋肉から種々のホルモンが排出され動脈硬化予防などヒトの老化を防ぐことが知られています。つまり運動すると元気になるメカニズムがわかってきたのです。

当院では、皆さんしっかり運動して体と心の健康度をアップしましょう。運動機器を用いて下半身の筋力訓練を中心に行う総合的リハビリを提供してまいります。

大霜 雄貴(リハビリテーション科主任)

鍼灸治療のかかり方

鍼灸治療の効果は明らかで、腰の痛み、足の痛みにも有効です。当院では下記のように鍼灸治療を受けていただけます。次のように鍼灸治療は保険診療内で行います。

MRI検査

整形外科診断

運動リハビリテーション

鍼灸治療

リラクゼーション

痛みの緩和として鍼灸治療

鍼灸治療は聞いたことはあるけれど、実際に経験したことはない方も多いかと思います。

鍼灸治療は東洋医学の治療法の一つで、国家資格を有する鍼師、灸師が鍼や灸を使用して体のバランスを整える治療法です。鍼灸治療は肩凝り・腰痛・神経痛・関節痛などに効果がありますが、その他にも多くのつらい症状や病気に効果が期待できます。

鍼灸治療には血液循環を良くし、自然治癒力や自己免疫力といった体自身が本来持っている力を呼び起こします。また内臓の働きを調節する自律神経を整え、身体の持つ恒常性維持機能を高める働きもあります。

近藤内科病院では髪の毛ほどの太さの鍼を使用するため、施術時の痛みはほとんどありません。またディスポ鍼(使い捨てタイプの鍼)を使用しますのでご安心ください。

お灸も温灸をメインとして施術しますので、熱くない気持ちの良い灸治療を提供しております。

鍼灸治療に興味のある方、試してみたい方は気軽にご相談ください。

島田 夏彦(鍼灸師)

③ 心不全地域連携システムでの心臓リハビリテーション

近年、生活習慣に伴う虚血性心疾患の増加や高齢化による高血圧や弁膜症など心臓病の患者は急増しています。中でも、心不全の患者数は増加傾向で、がんよりも予後が不良といわれており、その対応が急務となってきています。

心臓病の治療としては、外科的治療や薬物療法の進歩は著しいが、その他にも、再発や再入院を防ぐことを目的に行う『心臓リハビリテーション』が有効です。

心臓リハビリテーションにより心血管病による死亡率が26%減少し、入院のリスクが18%減少します。心不全では心臓リハビリテーションを行うことにより、再発による入院が39%減少することが証明されています。当院では主に、徳島赤十字病院と連携して心臓リハビリテーションを担当します。

『心臓リハビリテーション』の効果

- ①運動能力・体力の向上により、日常生活の心不全症状(息切れなど)が軽減します。
- ②血管が広がり、身体の血液循環が良くなります。
- ③自律神経が安定して、不整脈の予防に繋がります。
- ④動脈硬化の進展予防などがあります。



『心臓リハビリテーション』の対象は次の方々です。

- ①急性・慢性心不全
 - ②心筋梗塞後
 - ③冠動脈インターベーション後
 - ④TAVI(経カテーテル的大動脈生体弁植え込み術)後
 - ⑤心房細動カテーテルアブレーション術後 など
- ※心臓リハビリテーションは入院・外来・在宅でも行っています。

『心臓リハビリテーション』の受付

通院、入院、在宅でもリハビリテーションを行います。
ご希望の方は医師・看護師あるいは病院窓口に申し込んで下さい。

大霜 雄貴、前川 聡兵(心不全療養指導士)

④ ブレインヘルスケア脳ドックのご案内

人生100年といわれている現代において、アクティブに楽しく生きるには体と脳の健康が重要です。ヒトは誰でも、年齢とともに体も脳の機能も老化してきます。認知機能とは、理解力・記憶力・判断力などの知的機能のことです。認知機能低下の早期発見・早期介入により、脳の健康状態には可逆性があることも先行研究で示されています。

脳の健康状態を若い頃から適切に評価し、脳に良い生活習慣へとつなげていくことで、認知症の発症予防のみならず、その他の脳疾患や精神疾患、認知症になりにくい体と脳に近づけることが必要と言えます。このたび、近藤内科病院では最新のMRIとSplink社のAI画像解析システムなどを連携させて、脳の健康状態を適切に評価し、脳の健康度の維持向上につながる生活習慣につながる**ブレインヘルスケア脳ドック**を開始しました。このドックに採用したブレインヘルスケア・プログラムはAI画像解析 × 認知機能スケールにより、脳の健康状態を“見える化”により50代60代の脳の健康状態を若いころから適切に評価して、脳に良い生活習慣へつなげる一歩になることを目指しています。是非、多くの皆さまが脳ドックを受けて、ご自分の脳の健康度を高めていただきたいと思います。願っております。

脳ドック予約：088-663-0070 担当：鳴滝・久保



知ることからはじめよう、脳の健康。 ブレインパフォーマンスのセルフチェック

「のうKNOW」は「記憶する」「考える」「判断する」などの脳のパフォーマンスをチェックするツールです。

海馬の萎縮化 (Splink社提供) ▼

